

女性として酪農に携わる

岐阜県農業大学校 畜産学科 酪農専攻 2年 熊崎 朱里

私は、農業大学校での牛の飼育を通じて酪農の素晴らしさを知ることができました。高校3年生の時に北海道の牧場でふと感じた「牛を飼育してみたい」という思いで入学してからあっという間の1年でしたが、私はすっかり酪農の魅力にはまっています。

もともと私は動物、特に小動物に関わる仕事に興味は持っていましたが、普通科の高校出身で牛など家畜の事は全く知らず、酪農にもあまり良い印象がありませんでした。牛は人の扱いやすいようにされて可哀想だし、仕事内容は汚れやすいし臭いもきついそうで、私に向いている世界ではないと思っていました。そして男性が中心となって働いているイメージがありました。

しかし、農業大学校で実際に作業をしてみると、酪農は自分の考えていたものとは全然違いました。特に乳牛は人の管理がないと生きていけない動物であるため、私達が牛の生活しやすい環境を整えなければいけないことを学びました。そのため農家さんは愛情をこめて育てているし、牛のストレスにならないように少しでも畜舎を清潔に保つように心がけています。

農家派遣、校外学習や牧場でのアルバイトなどで農家さんと一緒に作業をすると、農家さんは自分の牛に誇りがあり、強いこだわりを持っていると実感します。また、一つの農家さんでは対応できない飼料作物の収穫を協力して行ったり、高価な機械を複数の農家さんで共同購入したり、災害などでトラブルが起きた時には助け合って解決したりする姿がありました。周りの農家さん同士で仕事をすることで楽しんで働けると思いました。

そして、牛の頭数の方が管理する人よりも圧倒的に多く、餌やり、搾乳、掃除など毎日大変なのにも関わらず、誰一人として早く終わらせようと焦って働く人はいません。時間がかかってもいいからじっくりと牛を観察しながら作業をしています。時間に追われる仕事をするのではなく、牛に合わせながら仕事をしていました。みなさんの心が温かく、牛にいつも気を配っているからこそ、乳量が出て長持ちする立派な牛ができるのではないのでしょうか。

酪農は飼料、分娩、病気などの多くの知識が必要とされるとても深い分野で、様々な技術も必要とされます。しかし時間をかけただけ、愛情を注いだけ牛は応えてくれます。また多くの農家さんや獣医さんとのつながりができ、情報交換などをしてどんどん自分のやり方を改善していくことができます。理想に近づくためにこだわりを持ち、自由に自分なりの仕事ができるというところも酪農の魅力です。牛を飼うということは本当にかっこいい仕事です。

もちろん、酪農というのは決して一人でできる仕事ではありません。獣医師、飼料の業者さん、

人工授精師などの専門的な知識や技術を持っている人は、牛を育てるうえでとても大切な方々です。また牛の移動や除糞など、一人ではできない仕事もあります。それから重いものを持つ事や、複雑な機械を操作する事など、体力的に女性では力が及ばない仕事もあります。事務的な仕事や哺乳などは男性よりも女性のほうが向いていることもあるかもしれません。そう考えると、酪農の経営を成り立たせるにはたくさんの方の力を借りなければいけないと思ったし、女性であっても大きく貢献することができる、むしろ女性の力が必要とされる仕事もあるということに気づきました。

私の考えた酪農に必要な女性の視点は三つあります。一つ目は細かなところに気づくことです。牛舎や倉庫などの掃除をするときは、目立つ汚れだけでなくあまり目につかないところも掃除します。また、道具をどこにどう置いたら効率よく使えて、きれいに見えるかも考えます。それから牛の小さな変化にも気づくことができるかもしれません。小さな事でも牛の命が助かったり、事故防止につながります。小さなことは後回しにされがちですが、それを実行することはとても大切なことだと思います。二つ目は子牛の世話をすることです。大規模農家では親牛の管理に追われ、子牛にあまり時間をかけられないのではないかと思います。子牛はデリケートですぐに体調を崩してしまうので、じっくりと観察し、管理することが大切です。また、病気や怪我などをすると将来に影響が出かねません。ゆっくり一頭一頭の哺乳や温度管理、掃除など、子牛の時期の丁寧な管理はとても大切だと思います。三つ目はGAPの励行です。どうすれば人も動物も安全で過ごしやすいかということを考えた、より良い環境づくりが必要です。例えば感染病予防のために注意の貼り紙をしたり、治療した内容や使用した薬を記録したりすることが挙げられます。当たり前なことでもなかなか手が回らなかったり、気づかなかったりしがちですが、GAPに取り組むことで、今までのやり方を見つめ直し、改善していくことができ、また、消費者の信頼も得ることにもつながるのではないかと思います。

このように女性が中心となることができる仕事はたくさんあります。最近では酪農関係の仕事に多くの女性も携わっています。また、機械化が進み、便利な道具もあるので誰でも簡単に作業ができるようになりました。そのためどんな方でも働きやすい環境になっていると思います。だからこそ一人の酪農業界に携わる人間として、自分のできることを精一杯やったいこうと思います。私は誰にでも体力的に、精神的にどうしてもできないことはあると思います。そして得意、不得意もあると思います。だから「女性だからできないだろう」というような考え方をするのではなく、何か他にできることはないかと考えることが大切ではないかと思います。働いている人みんなで、得意な人が苦手な人を補って協力していくことはどんな仕事においても大切なことだと思います。

私が将来乳牛を育てる仕事をしていく上で大切に思っているのは、人の管理のしやすさを

考えるのではなく牛に合わせた管理です。少しでもストレスをかけないように丁寧に搾乳したり、一頭一頭の牛の体調を見ながら餌の管理をしたりするなど、自分の育てる牛に愛情と誇りと責任をもって仕事をしていきたいです。そのために多くの方々の力が必要となるので、まずは私が周りをよく見られるようになって、多くの方々の力になれるようにしたいと考えています。

牛は人が愛情を注いだ分だけ応えてくれるし、自分の身を任せることができる人というのも分かってくれます。だから「どうしたら牛は喜んでくれるのか、また、つらい思いをするのか」考えながら作業をしていきたいと思います。まだまだ知識も少なく、技術も持っていませんが、勉強して多くの知識や技術を身につけて、日本の酪農に大きく貢献できる人になりたいと思っています。